

平成 21 (2009) 年度「NGO 長期スタディ・プログラム」最終報告書記載項目

提出日：2010 年 3 月 16 日

氏名：大平初美

所属団体：特定非営利活動法人 JHP・学校をつくる会

受入先機関名(所在国)：Hellenic Anti Poverty Network(ギリシャ)

研修期間(全体)：2009 年 10 月 2 日 ~ 2010 年 3 月 8 日

研修テーマ：ヨーロッパの NGO における効果的な市民啓発活動について学ぶ

全体研修目標：効果的な市民啓発活動の手法や戦略を学び、実践できるようになる

具体的な研修内容：

- ・2010 European Year for Combating Poverty and Social Exclusion キャンペーンイベントの企画・運営 (Hellenic Anti Poverty Network)
- ・市民啓発イベントの企画 (Service Civil International)
- ・国際協カイベント見学
- ・NGO 訪問
- ・ニュースレター作成 (Fair Trade Hellas)
- ・広報資料、開発教育ツールの研究

研修の成果：

(目標に対し達成できなかった内容がある場合は、その理由とあわせて報告してください)

2010 European Year for Combating Poverty and Social Exclusion キャンペーンイベント企画運営に関わることができた。

研修受入先機関の Hellenic Anti Poverty Network(HAPN)とは、ギリシャ国内の貧困問題や社会的疎外問題に取り組む NGO。HAPN はギリシャ国内だけでなく European Anti Poverty Network(EAPN)の構成団体としてヨーロッパレベルでも活動している。EAPN とは EU における貧困問題と社会的疎外問題に取り組むネットワーク NGO で、25 のナショナルメンバーと 23 の NGO から構成されている。活動内容は政府へのアドボカシーやロビー活動、市民啓発キャンペーン、広報活動など。2010 年が EU における貧困と社会疎外問題撲滅のためのキャンペーン年” 2010 European Year for Combating Poverty and Social Exclusion ” (写真)として定められており EAPN が中心となって本キャンペーンを運営していることから、研修プログラムでは HAPN におけるキャンペーン関連業務や、EAPN におけるヨーロッパレベルでの啓発活動(EAPN ナショナルメンバーのミーティング参加や、アドボカシー活動を目的とした欧州議会での公聴会参加など)について学ぶことができた。

研修先での業務は HAPN の担当者が産休中であり研修受入担当の Yota Arvaniti 氏が掛け持ちで業務を担当していたことや、2009 年 10 月にギリシャの政権が変わった影響を受けてキャンペーンの関連業務が実際に始まったのは 1 月であったことなど、想定していたほど実際の業務に携われる機会は少なかった。しかしキャンペーンについてのパワーポイント作成やキャンペーン情報を定期的に発信するためのメーリングリスト作成、支援要請のため国会議員のリスト作成など出来る範囲で業務に関わることができた。

また、HAPN ではネットワーク団体として取り組むメリットについても学ぶことができた。EAPN は貧困問題に効果的に取り組むために EU 各国に支部を持ち国内レベルとヨーロッパレベルとで活動している。ネットワーク団体が EU 各国にあることから一般市民や政府機関に対する知名度の向上やロビー活動にも役立っている。研修受入担当の Yota 氏によると「EAPN は効果的なロビー活動を行うために国や欧州議会議員、市長、行政責任者などの支援者を得ている。これは政策に影響を与えたりより多くの支援者や寄付者などを獲得するのに効果的。また ギリシャでは一般市民にとっては特定の団体や組織よりもネットワーク団体を信頼する傾向がある。(特定の団体や組織が国際的な団体でなく、また知名度もあまりない場合は特にその傾向が強い)そのためネットワーク団体は信頼の点でも強みがある」とのことでネットワーク団体としての強みや他団体と協力して問題に取り組むメリットを実感した。

市民啓発イベントの企画プロセスを学ぶことができた。(Service Civil International)

HAPN とオフィスシェアしている Service Civil International(SCI)の市民啓発イベントの企画メンバーとしてプロセスに関わることができた。SCI とは世界 35 カ国に支部を持ち各国で平和運動を行う国際 NGO で国際ワークキャンプなどのボランティア活動を行っている。研修受入担当の Yota Arvaniti 氏が SCI の責任者であることからボランティアメンバーとして企画プロセスに携わることができた。この啓発イベントの目的は SCI とワークキャンプの広報でターゲットは大学生などの若年層。SCI が保有する広報資料(パネル、ポスター、リーフレット、ポストカード、ガイドブック)を利用した写真展を2010年5月頃に行う予定で、イベント企画に関心のあるボランティアメンバーが集いディスカッションを行った。イベントの内容は参加者に関心を持ってもらえるよう団体の活動紹介だけでなく参加者が楽しめるもの(フリーマーケット、上映会、ライブなど)のアイデアが挙がった。また、SCI のワークキャンプではボランティア活動を行っているためボランティア活動やワークキャンプを知ってもらうために体験ボランティア(アテネ市内のゴミ拾いなど)のアイデアも出た。ボランティアメンバー(イタリア人、スペイン人)が中心となつての話し合いであったため SCI スタッフのイベント企画手法を学ぶ機会は少なかったが、所属団体では大学生を中心としたボランティア派遣を行っているため大学生や若年層の関心を得られるようなイベント企画のプロセスに関われたことは貴重であった。

ギリシャの国際協力イベントに参加することができた。

HIV/エイズ、障害者支援、フェアトレード、移民支援、環境系の市民啓発イベントに参加し、イベント内容や広報資料などについて学ぶことができた。出展団体のスタッフやボランティアメンバーによると、ギリシャでは一般市民の NGO や任意団体への懐疑心が強く、寄付をしてもそれが本当にプロジェクトに使われるかどうか懐疑心が強いので NGO への支援を得にくいとのこと。イベント内容は活動紹介と併せてライブ、ダンス、バザー、映画上映、アート展示などを取り入れ、参加者が気軽に楽しめる工夫がされていた。開催場所は主にアテネ中心部のシンタグマ広場(地下鉄やバスの乗り換え地点であり一日中人通りが絶えない)や、パルテノン神殿付近のほか、バーやカフェなどで実施されていた。

2009年12月5日にベルギー、ブリュッセルで行われた Handicap International Belgium のチャリティーダンスイベント「SOLIDANZA」では、障害を持つ人々が車椅子ダンスを披露し、健常者も一緒にダンスを楽しむという内容であった。障害者と健常者が同じステージに立ってダンスを楽しむことで、障害者に対するステレオタイプや偏見などを自然に減少させるのに役立っていると感じた。

また、2009年11月5日に訪問した障害者支援施設「TANDEM」では、責任者のカテナ氏が障害児への偏見やステレオタイプを軽減させるために子ども達とスーパーへ買い物に行ったり映画を観に行ったりすることも啓発活動の一環だと話していた。これは、ギリシャでは普段、健常者と障害者が接する機会が少なく健常者の障害者に対する偏見やステレオタイプが多く見受けられるため、健常者が障害者と接する機会を作ることも啓発活動の一つだという考えからきている。また、障害者に対する偏見やステレオタイプを減少させるためには子どものうちから取り組む方が大人を対象とするよりも効果的であるとして小学生を施設に招き障害をもつ子どもとの交流を行っている。啓発活動と一口に言っても何を目的とするかによって方法や手法が変わってくると感じた。

参加したイベント

- 2009年10月10日:8th GIORTH ETHELONTISMOY 国際協力イベント(写真)
- 2009年11月28日:世界 AIDS デーイベント(写真)
- 2009年11月29日:THERAPEUTIC RIDING ASSOCIATION OF GREECE パザー(写真)
- 2009年11月15日:talking about MY GENERATION The 2nd Generation Immigrants' Festival”(写真)
- 2009年12月5,6日:Handicap International Belgium SOLIDANZA(ブリュッセル)(写真)
- 2010年3月6日:UNITED AFRICAN WOMAN ORGANIZATION イベント(写真)

NGO を訪問し啓発活動についてインタビューすることができた。

フェアトレード、障害者支援、ホームレス支援、難民支援の NGO を訪問し活動について話を聞くことができた。

12月5日に訪問した Handicap International Belgium(HI)のチャリティーイベント”SOLIDANZA”では、コミュニケーション&ファンドレイジングディレクターの Jan Brigou 氏にイベント告知方法について話を伺った。氏によると「告知にはテレビ、ラジオ、ニュースレター、ウェブサイトを利用。宣伝用クリップを作成しTVメディアに無料で流してもらった。ウェブ上の広報ツールとしてはFacebookを利用。情報掲載後1週間で登録者が200名にまで増え大変効果的だった。会場は元証券取引所だった場所を利用。施設オーナーにイベントの趣旨を話し交渉したら無料で借りることができた。またイベント運営についてもスポンサーを探して経費を負担してもらったため全ての収益が HI へ入る。今年の来場者目標数は1,000名。反省点を改善して来年も開催したい」とのこと。HIでは広報に協力してくれるメディアパートナーを日頃から探しており、所属団体でも普段からメディア関連の協力者を確保しておくことの重要性を改めて感じた。この宣伝用クリップはウェブサイトにも掲載されておりHP訪問者も閲覧できるようになっている。

訪問 NGO

- 2009年10月26日:FAIR TRADE HELLAS(アテネ)(写真)
- 2009年11月5日:TANDEM(プーラ)(写真)
- 2009年11月19日:GALERA(アテネ)
- 2009年11月23日:GREEK COUNCIL FOR REFUGEES(アテネ)(写真)
- 2009年11月26日:CENTER OF TEMPORARY ACCOMMODATION OF ASYLUM SEEKERS OF FOREIGNERS IN LAVRION(ラヴリオ)
- 2009年12月4日:Handicap International Belgium(ベルギー、ブリュッセル)
- 2010年2月27日:The "A. Tritsis" Environmental Education & Sensitization Park(アテネ)(写真)

FAIR TRADE HELLAS ニュースレター作成業務に携わることができた。

FAIR TRADE HELLASとはフェアトレードのキャンペーンやフェアトレードショップの販売を行うギリシャで唯一のフェアトレードの認定を受けたNGO。ニュースレター作成業務ではメンバーの募集、ミーティングの実施、ブレインストーミング、役割分担、各自作業の実施、などのプロセスを学ぶことができた。FAIR TRADE HELLASでは顧客向けのメンバーズカードを作成。このカードを持つと特典としてニュースレター(紙媒体ではなくウェブ媒体のもの)が月一回配信される。配信対象者はメンバーズカード保持者、ショップで買い物をした顧客、インターネット上で買い物をした顧客などデータベースに登録されている約2,000名。スタッフによるとフェアトレード商品を購入してもフェアトレードについて知らない人々も多く、そういった層への啓発の目的もある。ギリシャでは(正式にフェアトレードの認定を受けた)フェアトレードショップはこのFAIR TRADE HELLASのみであるためさらなる支援者発掘の狙いもある。

ニュースレターのトピックスはフェアトレードショップスタッフ/ボランティアの記事、フェアトレード農園で働く生産者の声、フェアトレードショップスタッフ/ボランティアや顧客へのインタビュー、世界のフェアトレードの

ニュース、今月の目玉商品、フェアトレードクイズ、イベントカレンダー。フェアトレードクイズは購読者が答えを探す中でよりフェアトレードについて考える機会を与える目的がある。

メンバーは FAIR TRADE HELLAS の Facebook(ソーシャルネットワーキングシステム)で募集。スタッフ2名と定期ボランティア1名の他、外部からはグラフィックデザイナー(メキシコ)、女子学生(ギリシャ)、公務員男性(ギリシャ)、大平がメンバーとして参加。全員がもともとフェアトレードや FAIR TRADE HELLAS の支援者であったため、ミーティングでは顧客/支援者の視点からニュースレター購読者がフェアトレードについてどんなことを知りたがっているか、どのような記事だったら読みたいと思うかなどの意見が挙がりスタッフにとっても有益なミーティングであったと思う。所属団体でも会員や支援者の声を聞ける機会をもてればと感じた。ウェブ媒体のニュースレターはレイアウトやデザインを自由に構成できるため、テキスト情報のみのメールマガジンと比べて視覚的なインパクトを与えることができる。写真も掲載可。公式 HP や関連サイトへもリンクすることができる。(写真)

受入先機関や他団体の開発教育ツールや広報資料について学ぶことができた。

人権教育ゲーム

Service Civil International Hellas(SCI)考案の人権教育教材。若年層の人権問題啓発が目的。対象は中学生以上。ゲームを通して人権侵害事例、人権条約、人権機関について知ることができ、参加者間のディスカッションも促すことができる。(写真)

フォトランゲージ、ロールプレイを用いた開発教育

SCI 毎年夏に行うワークキャンプのワークショップでが大学生を中心としたワークショップでロールプレイやフォトランゲージを利用。フォトランゲージとは一枚の写真を提示して参加者が観察し、そこから感じたことや、疑問に思ったこと、気づいたことなど参加者間で意見を共有するアクティビティ。自ら役を演じることで問題に関して理解を深めることができる。正解不正解はなく、役を交代することで対立する相手の立場を考える機会を与えることもできる。フォトランゲージやロールプレイはテーマや方法をアレンジすれば所属団体での中高生を対象とした啓発活動でも利用できると感じた。

ポスター作成・掲示作業

Service Civil International(SCI)のポスター作成・掲示作業に関わることができた。ポスターの目的は Service Civil International が企画する夏のワークキャンプ参加者募集。印刷部数は 100 枚で A3 カラー。SCI のボランティアメンバーと作成した。SCI はポスター設置場所のリスト(アテネ市内の大学や語学学校、国際交流団体など)を保有している。ポスターの目的はヨーロッパの若者を対象としたワークキャンプ参加者募集であったため、アテネ市内の大学や語学学校、国際交流団体を中心にポスターを掲示した。アテネ市内ではポスター掲示に関してはあまり厳しい規制がないようで政治的なものではないと説明したらたいてい掲示を許可してくれた。道を歩くと柱やお店の壁や大学などにポスターが所狭しと貼ってある。上記の団体以外にもカフェやレストランの壁や柱など一般市民の目に着きやすい場所にも許可を得て掲示することができた。所属団体では現時点ではカンボジアボランティア隊の募集はチラシやホームページで広報している。今後はカンボジアボランティア隊募集のポスターを用意して大学や国際交流団体などへ掲示しに行くこともできると思う。ポスター掲示作業中には途中で興味を持った大学生が話しかけてくれることが多くその場で広報活動もできた。細かい点ではポスターの下部に短冊状で SCI の団体名と URL を記載し、切り取れるようになっている。後日どれくらいの人が情報に興味を持ってポスターを切り取って行ったかを知ることができた。(写真)

本研修成果の自団体の組織強化や活動の発展への活用方針、方法：

中高生を対象とした啓発活動での活用

所属団体では修学旅行時の NGO 訪問受入や、学校を訪問しての活動紹介など中高生を対象とした啓発活動を行っている。普段はアイスブレイキングとして世界各国の写真を使い簡単なゲームをし、その後カンボジアの現状や団体の活動についてパワーポイントを使ってプレゼンテーションをしているが、このアイスブレイキングでもう少し啓発的な要素が加わればと考えていた。そこでフォトランゲージやロールプレイを利用し、より参加者自身の理解を促したりディスカッションを促せるようにしたい。例えば、普段のアイスブレイキングゲーム、プレゼンテーションと合わせてフォトランゲージを利用してみる。カンボジアの学校(校舎、トイレ、井戸、ブランコ、水牛等が写っているもの)の写真を見せ、日本の学校とどこが違うか？トイレや井戸の写真を見せて衛生教育の必要性を話したり、カンボジアの時間割や教室内の写真を見せて、カンボジアでは教室数が少ないために二部・三部制をとっていること、教員が少ないことなどもテーマとして話せると思う。一方的なプレゼンテーションではなく、参加者が写真を観察し、そこから感じたことや、疑問に思ったこと、気づいたことなど参加者間で意見を共有できるような流れをつくりたい。

チラシやリーフレットなどの広報資料作成業務に活かす

国際協力イベントや NGO 訪問の際に入手したチラシやリーフレットを参考に、所属団体での啓発資料づくりに活かしたい。FAIR TRADE HELLAS ではフェアトレード広報用の資料としてノート型のリーフレットを利用している。(写真)このリーフレットは子どものような字で書かれている。子どもの父親が農民という設定で、村にフェアトレードが導入されてから生活がよくなったという内容のことが子どもの視点から書かれており、このように受益者に語る手法は効果的だと思う。また 11 月 28 日の世界 AIDS デイイベントでブースを訪問した PRAKSIS の HIV/エイズ啓発用リーフレット(写真)は YES/NO チャートになっており、質問に答えていく中で HIV/エイズについての知識が得られるようになっている。所属団体では小中学生にもわかりやすい啓発資料が少ないためテーマをアレンジして所属団体でも利用したい。

啓発イベントで用いられている手法を所属団体でのワークショップやイベント出展の際に活かす

Service Civil International(SCI)の広報資料(写真、パネル、ポスター、リーフレット、ガイドブック、人権教育ゲーム等)は種類も豊富でデザインもよく、それらを使ってイベントを企画することができる。また、SCIは毎年実施するワークキャンプの紹介用 DVD も持ち、啓発活動イベントでワークキャンプ参加者募集の際に利用することができる。所属団体で利用している映像資料は主に約 6 分の活動紹介ビデオ(活動全般を紹介したもの)であるため、より詳しく各事業について知ってもらうために、事業ごとの紹介 DVD を作成し、プロジェクトに対する支援を呼びかける際やボランティア募集説明会などで利用したい。

また、ギリシャの国際協力イベントでは参加型のイベント内容が多かった。所属団体でのイベント出展時には活動紹介とカンボジアグッズ販売がメインであるため、それに合わせて参加者が楽しめるワークショップや参加型のボランティア活動を取り入れてみたい。

ソーシャルネットワーキングサービスの活用

ヨーロッパの NGO では Facebook を利用する団体が多い。Facebook とは Facebook, Inc. の提供するソーシャル・ネットワーキング・サービス。利用・登録料無料。団体の概要や活動目的、公式ウェブページへのリンク、情報の告知、写真の掲載、ブログの掲載、動画・写真の掲載ができる。公式 HP サーバー等に容量の負担をかけず、容量無制限、無料で動画・写真掲載が可能。所属団体でもプロジェクトの様子を動画で配信して支援を呼びかけたり、活動紹介ビデオを配信したりなど利用できるのではないかと思う。JHP のプロジェクトを動画として配信する場合は、現在記録データとして保管している映像を短く編集し、動画をアップロードする。JHP のホームページ上で動画を閲覧できることを知らせ、配信サイトへのリンクを貼る。教育支援事業への支援を呼びかける際に音楽授業や音楽コンテストの写真 & 動画を配信してより視覚的に訴えたり活動紹

介ビデオを掲載することもできる。また、Facebook は若年層の登録数が多いため大学生を中心としたカンボジアボランティア活動隊の参加者募集にも利用できると思う。その他、公式 HP へのアクセスを増やすため Facebook 掲示板へニュース・イベント告知やスタッフブログの掲載も可能。所属団体ではウェブ情報発信媒体として国際協力系掲示板や mixi を利用している。また、いまのところ Facebook は日本よりも海外での利用が浸透しているが登録者数が多いため情報発信ツールの一つとして検討してみたい。他団体ではチャリティーイベント専用 Facebook サイトを設置 (Handicap International Belgium) し、イベント告知用ミニ動画・写真掲載。Handicap International はイベント動画掲載。FAIR TRADE HELLAS は写真ページにフェアトレード商品の写真を掲載し公式 HP へリンクを貼っている。Amnesty International はメディアで放送されたニュース動画を配信。

メールマガジンについて

10月26日に訪問した FAIR TRADE HELLAS のショップではレジ横に顧客や訪問者が名前やメールアドレスを登録できるよう連絡先記入用紙が置かれている。登録者には後日不定期でイベントのお知らせが届く。また、12月4日に訪問した Handicap International Belgium でもイベント時にはメールアドレスを参加者に記入してもらい、後日団体の情報を配信している。JHP でも月2回メールマガジンを配信しており、イベントや報告会でもメールアドレスの記入を参加者に任意でお願いしているが、より登録者を増やすために事務所やイベント、オリエンテーションなどでメールアドレス記入用紙を置いて積極的に登録を呼びかけるようにしたい。また、現在のメールマガジンはホームページ上で見つけづらいため、登録しやすくするために目立つところへ項目を設置するなど改善できる。



(写真) 「貧困と社会的排除を撲滅する欧州年」が開幕(欧州連合HPより。
<http://www.deljpn.ec.europa.eu/modules/media/news/2010/100121b.html>)



(写真□) 8th GIORTH ETHELONTISMOY 国際協力イベント



(写真) 世界 AIDS デーイベント



(写真□) THERAPEUTIC RIDING ASSOCIATION OF GREECE バザー



(写真) talking about MY GENERATION The 2nd Generation Immigrants' Festival”



(写真) Handicap International Belgium SOLIDANZA 引用日期
<http://ja-jp.Facebook.com/album.php?aid=142404&id=136408452203>)



(写真) UNITED AFRICAN WOMAN ORGANIZATION イベント



(写真) FAIR TRADE HELLAS



(写真) TANDEM



(写真) GREEK COUNCIL FOR REFUGEES



(写真) The "A. Tritsis" Environmental Education & Sensitization Park



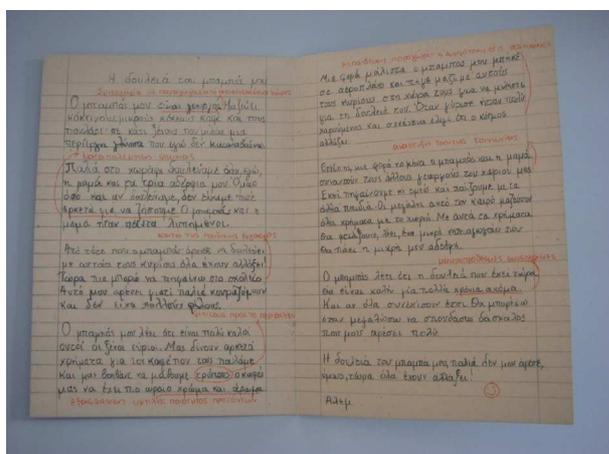
(写真) FAIR TRADE HELLAS ニュースターインタビュー



(写真) 人権教育ゲーム



(写真) Service Civil International ポスター



(写真) FAIR TRADE HELLAS リーフレット



(写真) PRAKSIS の HIV/エイズ啓発用リーフレット



(写真) HAPN 広報資料(左からニュースレター、中上リーフレット、中下報告書、ポストカード3枚)



(写真) オフィス同僚(中央が研修受入担当の Yota Arvaniti 氏)

以上